

# 【ホーチミン 戦争証跡博物館】

住所：28 Vo Van Tan str. Dist. 3 HCMC

電話番号：08-3930-6325

営業時間：年中無休、7:30～12:00、13:30～17:00

1975年4月30日、解放戦線旗を掲げた戦車が大統領官邸に無血入場を果たし、ベトナム戦争が終結。2015年で40周年となりました。ベトナムの南北統一をめぐる戦争でしたが、実際には南ベトナムを支援したアメリカ、北ベトナムを支援したソ連・中国など政治的戦略が背景にありました。そんな中、ベトナム国内だけで200万人近い人々が犠牲になったこの悲惨な過ちを二度と繰り返さないと願いを込め、ベトナム戦争に関する写真や保管物を展示しているのが「戦争証跡博物館」です。ベトナムという国を訪れたからには見ておきたい場所の一つです。それはこの国を知るためには避けては通れない悲しい歴史の1ページであると同時に、これだけの出来事があったのにも関わらずベトナムの人々は持ち前のガッツとエネルギーで「戦争」という歴史を乗り越えようとしている、お互いの意思を再確認する場所にもなっています。ベトナム現地校・インターナショナルスクールでも、博物館への野外授業が盛んに行われています。



博物館入り口

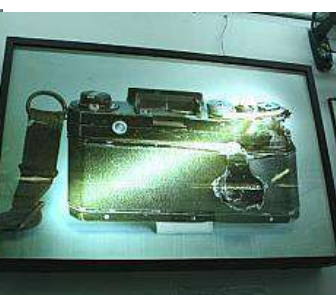
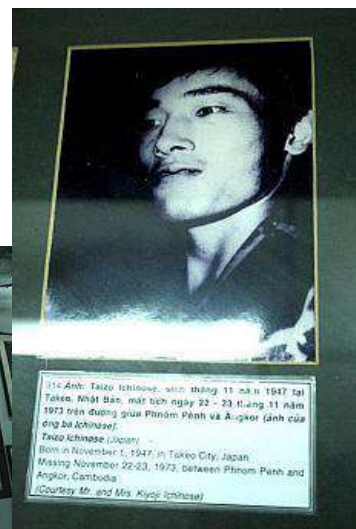


戦車や戦闘機、本物の武器が収集・展示されています。



展示室の中に入ると雰囲気は一変、戦争の原因、経緯を追った資料が展示されています。真ん中はベトナムのドクちゃんの手術前の写真

～ベトナム戦争の特徴のひとつが世界中のメディアによって報道が自由になされたこと。多くのカメラマンやジャーナリストが真実の姿を目指してベトナムを訪れ、命がけで残した記録の一部がここに残っています。「安全への逃避」というタイトルがつけられた1枚の写真。戦場カメラマン沢田教一さんはこの写真でピューリッツァ賞を受賞。その5年後にプノンペンの国境沿いで狙撃され、わずか34歳の若さで亡くなりました～映画「地雷を踏んだらサウナ」の主人公のモデルとなった戦場カメラマン、一ノ瀬泰造さんの遺品のカメラの写真もあります。





コン Dao 島にあった反政府運動した人々を処刑した刑務所や拘置所、ギロチン台、政治犯がどのようにして拷問を受けたのかがリアルな模型や当時の写真で記されています。



20 世紀初頭の革命運動弾圧に使用されたギロチン台



お土産コーナーと博物館内の様子



ベトナム戦争中に世界中から届いた平和を望む声をポスターや看板などが展示してある部屋。日本語で米軍の撤退を訴えるポスターも置かれています。日本人報道カメラマンの石川文洋さんと中村梧郎さんの写真を常設されているコーナーがあります。

